

	課題分析	授業改善策	改善状況
国語	○ 国語に対する苦手意識の改善 自己紹介カードなどを分析すると、国語を好きな教科として挙げている生徒は殆どおらず、苦手として挙げている生徒は多数いる。直接聞くも苦手だと答える生徒が多い。 ○ 基礎的な知識事項の習得 語彙力があり、作文や短歌を書くときにその能力を発揮している。一方で、原稿用紙の使い方が分からなかったり、季語などの知識がなかったりなど知識面での問題が見受けられた。	○ 国語を好きになる指導、自身の学力に自信がもてる指導を行う。国語が苦手と言うが、学力は高い。なので、適切な評価をすることはもちろん、授業内で、身に付けさせたい資質・能力を明確に生徒に提示することで、何ができるようになったのかを生徒が理解できるようにする。また、生徒のニーズに合った授業や課題を行う。 ○ 知識・技能の習得に向けた指導を丁寧に行う。原稿用紙の使い方をはじめ、句読点や文末表現など記述問題の解答方法を丁寧に指導する。また、身に付いていないと感じた知識技能に関しては放置せずに、何度も振り返って指導を行う。	
社会	○基礎的・基本的な知識の定着とその活用に関個人差がある。 ○学んだ知識を生かした思考力・表現力に課題がある。	○授業の最初に、前時の復習を、プレゼンテーション資料等を活用して行う。問題集を活用し、定期的に提出させて基礎・基本の定着を図る。 ○「主体的・対話的で深い学び」を目指し、小グループでの話し合いでは、個人の意見を発表して終わるのではなく、ファシリテーターの生徒を育てることで思考を深めることを意識する。授業ごとに発表する生徒を変え、全生徒が表現力を育めるようにする。	
数学	○授業では分かったりできたりすることが、テストになるとできない生徒が多い。 ○発展的な問題や文章の問題など、思考・判断・表現を要する問題になると、既習事項とのつながりや考え方に、苦手意識をもち、解決できない生徒が多くいる。	○習熟に合わせた課題の反復練習を適切に取り入れ、計算力等の定着を図る。 ○小テストや単元テストを取り入れ、課題や単元ごとに習得の確認を行う。 ○「主体的・対話的な深い学び」の実現に向けて、なぜ?と考える発問を増やし、他者と学び合いながら思考を広げ、好奇心をもって課題に取り組めるようにする。	
理科	○特に実験の際、取組への積極性に差があった。 ○基礎知識の習得状況に差がある。 ○普段の授業の考察やテストの思考問題など思考・判断・表現が求められる場合、得意な生徒と苦手な生徒の差が大きい。	○実験中は役割分担を徹底させ、全ての生徒が参加できるようにする。 ○こまめな小テストで習得状況の確認と知識の定着を図る。 ○実験後の考察において、自分で結果から考えて答えを出す大切さを繰り返し伝え、授業中に思考を求められる練習問題を多く取り入れる。	

音楽	○主体的に学習に取り組む態度に差が見られる。 ○音楽の構造についての知識や音楽の要素を知覚・感受する力に差がみられる。	○歌唱表現活動では毎時間決まった呼吸練習と発声練習を行い、手で音程を表現してから声で表現して技能を高める。曲の背景や作曲者の意図を考えさせ音楽表現の意欲を高める。 ○楽曲に使用されている楽語や記号の意味を理解するだけでなく、なぜ用いられたのかプリントに書かせ、グループや全体で共有する。	
美術	○制作の見通しを立て作業することが困難で、作業が遅れる生徒が見られる。 ○意欲的に制作に取り組むことができていない生徒がいる。 ○鑑賞において、話し合い活動のあと自分なりの考えをもつことが難しい生徒が多い。	○制作手順や制作日程の確認を作業前に丁寧に行う。必要に応じて個別の声かけを行う。 ○生徒の興味関心のある教材設定や導入づくりに力を入れる。 ○個人で考える時間、文章にしてまとめる時間を十分に確保した上で、話し合い活動を行う。	
保健体育	○運動活動に対して積極的だが、仲間と連動した動きを意識することに課題がある。 ○安全面において、自己と他者の安全を確保する意識が低い。 ○知識に差があり、ゲーム性が高くなった際に能力の差が顕著にでている。	○自己表現だけでなく、他者の動きを見る時間やグループの動きを分析する時間を設け、自己の動き方を意識させる。 ○予想される事故やけがを紹介し、予測して回避できるよう、安全意識を高める。 ○単元ごとに授業内でのルールを明確にして取り組ませる。	
技術家庭	○各自、考えや気付きをもてたが、全体で共有し主体的な内容に繋げるに至らなかった。 ○全体の課題は共有したが、それぞれの課題設定ができなかった。	○話し合いや発表の時間を確保し共有することを意識する。 ○個々が課題設定できるように、単元ごと最初の1時間を活用して工夫した導入授業を行う。	
外国語	○英作文を添削する際に、3人称、過去形、動名詞、人称代名詞などの使い分けを間違える生徒が多く見られる。 ○英語を苦手教科として挙げる生徒は多く、意欲的に授業に取り組めない様子が見られる。	○英作文はこまめに回収・添削し、生徒が自身の間違いに気付けるようにする。教科書やワークなどの既存の教材だけではなく、生徒の実情に合わせてオリジナルの教材（重要事項をまとめた表やワークシートなど）を用意し、基礎知識の定着を図る。 ○「主体的・対話的で深い学び」の充実を目指し、ペアワークやグループワーク、ICT 機器を活用する。学習した単語や文法を使用し、自身のことについて英語で表現する機会を多く設ける。	